



つばさ

第 80 号 2026 年 4 月発行
放送大学 兵庫学習センター
姫路サテライトスペース

生成 AI をどう使う？

大月 一弘 兵庫学習センター客員教授
神戸大学名誉教授（国際文化学研究科）
専門 情報科学

第 79 号の森下先生に続き、生成 AI の話。

生成 AI は、危険な面もいろいろと指摘されていますが、折角の便利なツールなので、「私たちが生成 AI の性質を学習」して、うまく使いこなしていくことが重要です。

確実に効果がある生成 AI の使い方は、人間の行なっていた作業の代行を AI に頼むことです。「このエクセルデータでグラフを作って」、「この文章をもとにプレゼン資料を作って」などです。重要なのは、最終的に作りたいものを人間がわかっているということです。つまり、AI に作業はやらせようけど、作成物の善し悪しの判断は人間が行ないます。プログラムを理解している人がプログラム作成に使う時も、これにあたります。このような使い方をすると、人間の作業時間が大幅に軽減できます。

生成 AI の登場当時は、「嘘がかなりある」と言われていました。例えば、「神戸大学の 大月一弘」を調べたところ、医学部の大月先生（名前は「かずひろ」でない）と混同していました。彼の英語論文の共著者に Kazuhiro という方がおられたために、Ohtsuki の単語の近くに Kazuhiro があるので大月一弘だろうと判断していたようです。しかし、1 年も経たないうちに改善されました。最近では、昨年 12 月の青森県東方沖地震の際に、「現在、青森県に津波注意報はでていません」という誤情報を発信しました。これは、リアルタイム情報をうまく収集・分析できていなかったことが原因です。「最新の津波警報や天気情報については、今は改善されていて、リアルタイムで検索して確認できるようになっている」と、生成 AI の Copilot は回答しました。このように、生成 AI は様々な失敗を学習して（正しくは人間が学習させて）、精度をどんどんあげています。ただし、「正直に言うと、気象情報以外では、情報源のページが古いのに「現在の情報」と書いてある場合、それを完全に見抜くのは難しいこともある」とのこと。

さて、私は、面接授業の準備で「〇〇のとき、インターネットは活躍したか」と AI に聞いてみました。すると、それほど活躍しなかったと思う時でも、「活躍した」との回答がありました。よく考えると、ネットや新聞などでも「活躍した」事例は沢山有るのですが、それほどうまくいかなかったという記述はほとんどありません。以前、報道関係者から取材を受けたとき、「そういうことなら記事になりませんね。」と言われたことがあります。つまり、個々の情報の信憑性はあっても、テキスト化される情報には「偏り」がある。これって、人間が AI を使わずにネットを調べた場合にも「誤った結論になる」っていうことだよな！



客員教員を退任される先生方からのメッセージ

お世話になりました

3年間大変お世話になりました。講義では多くの方々に有孔虫化石や古環境に関心をもっていただき大変貴重な機会となりました。これまでお世話になった方々皆様に厚く御礼申し上げます。

特別講義では、第四紀の古環境を中心にお話させていただきました。星砂は生き物だったのですねと興味をもっていた方がたくさんいて講義をするエネルギーになりました。

有孔虫を調べるとわかる代表的な環境変動は氷期・間氷期の周期的な気候変動です。現在は間氷期に相当する温暖期であり、地質時代としては完新世になります。しかし、現在、人間活動によって地球環境が大きく変わり人新世と呼ばれる新時代になったと考える人も多くなりました。氷期・間氷期の話をしますと、氷期の方が社会への被害が大きいと思われる方も多いと思います。しかし、現在問題となっているのは急激な温暖化であり、氷期への移行よりも急激な温暖化への緩和・適応が大事と私自身は考えています。当然、地球環境の予測はたいへん難しく、北大西洋の深層水形成の停止は北極圏の急激な寒冷化を招く虞もあり、観測・研究による科学的評価を継続的に行っていく必要があります。近年、CO₂の全世界排出量は年々増え続け、まだ当面大幅な排出量削減は見込めないようです。パリ協定の1.5℃目標を目指すためのCO₂排出上限にあと数年と差し迫っています。

このような状況下、わが国において何ができるのでしょうか。更なる再生可能エネルギーの推進、そして日本の豊かな森林を保全することによりカーボンニュートラルを目指すことが大切だと考えます。日本に住む人々全員の創意工夫でこの新たな地質時代である人新世を乗り越えていきましょう。この3月に退任させていただきますが、私は神戸大学鶴甲第2キャンパスで研究を進めておりますので、近況のご報告などお話しに来ていただければと思います。皆様の今後のご活躍を楽しみにしております。



神戸大学教授
大串 健一

「知ること」の喜び



神戸大学名誉教授
坂本 千代

2011年4月から2016年3月まで、そして神戸大学退職後の2021年4月から2026年3月までの兵庫学習センター客員教授としての10年間は私にとって楽しく、意義深い経験でした。いちばん印象に残っているのは、新型コロナ禍がまだ続いている2021年度2学期に特別講義（ゼミ）を何度か自宅からZoomで行なったことです。Zoomの画面には学生さんの名前が表示されるため、今まで顔だけしか知らなかった方の名前がわかったのは、オンライン授業の思いがけない副産物でした。

10年間の特別講義では、神戸大学勤務時代の授業のネタを出し尽くしてしまったので、最後の数年間は毎回何か新しいものを用意する必要がありました。2023年度からは「フランス文学とその時代」というテーマで、中世から20世紀までのフランス文学の傑作を時間軸に沿って取り上げました。そのために古い映画を探したり、動画に自分でテロップをつけたりと授業資料作成に工夫をこらしたのも良い思い出です。

おとしの夏あたりから左膝の故障、逆流性食道炎などに悩まされました。講義の時に私が杖をついているのを見た人たちから、授業後にいろいろ役に立つ情報をいただきました。前職と違い、こちらでは私と年齢が近い学生さんも多いので、「同じ症状で悩んだ人がいる、快復した人がいる」ということを知ることができ、ずいぶん元気づけられたものでした。

兵庫学習センターには若い人から私より年上の人まで様々なバックグラウンドを持つ学生さんがいるため、できるだけ大勢の人に授業を理解してもらおうと工夫するうちに、教員である私も「知ること」の喜びをいっしょに追求しているという実感を持つことができました。今後も何らかの形で「世界」や「人間」を広くかつ深く追求していきたいと考えています。皆様、長い間本当にありがとうございました！

お伝えしなかったことと今後への思い

着任時、私は専門である食の分野の中でも「食の安全」に焦点を当て、メディアに溢れる情報を取捨選択するために必要な視点を、学生の皆様に提供しようと考えました。食品衛生におけるリスクを適切に判断するためには、科学的根拠、なかでも「量の概念」に基づく視点が不可欠です。これらが欠落した情報に惑わされることなく、実はあまり心配しなくてよいことと、もっと注意すべきことを共に考えようと努めてきました。

メディアでは依然として、食の不安を煽る情報が衰える気配はありません。認知科学が専門の今井むつみさんの著書『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか?』(2024, 日経BP)によると、私たちは「目に入ったり認識できたりしたごく一部の情報が『すべて』だと思い込んでしまう」傾向にあるそうです。

また、知識や情報の受け取り方には、何かしらの偏りが必ず生じ、自分に合わない情報はそもそも頭に入っていないと述べています。個々人が持つスキーマ (Schema) - 知識や経験を結びつけて形成される認知の枠組み - によって、捉えているものは人によって変わるとも指摘しています。私たちはこのスキーマをもとに推論しますが、そこに新たに適切な知識や情報を取り入れることで、推論の精度は高まります。これはあらゆる分野に当てはまることです。

学生の皆様の中には、若い方だけでなく年齢を重ねてもなお向学心を燃やし続ける方が少なくありません。そうした姿に私も大きな刺激を受けてきました。皆様に負けないよう、自身のスキーマをどう修正し、正しく形成していくか、さらに勉強してまいります。4年間のお付き合いに心より感謝いたします。これからもお互い学びを深めてまいりましょう。



神戸大学名誉教授
白杉 直子

特別講義で3つの「新」領域と出会う



神戸大学名誉教授
米谷 淳

特別講義では社会心理学のトピックスを扱うとともに初物に挑戦しました。その結果、脳科学、非形式論理学、進化心理学といった、私がこれまで扱ったことのない領域と出会えました。

令和4年度第1学期はスウェーデンの脳科学者アンデシュ・ハンセンが書いた『スマホ脳』を手始めに、スマホ、ネットゲーム、SNSへの依存に関する心理学者や脳科学者などの本を紹介しました。第2学期はスマホ・ネット依存や「スマホ認知症」の治療と予防、とくに3週間スマホ断ちする「デジタル・デトックス」や、デジタル機器を断捨離する「ミニマルライフ」について、精神科医や臨床心理学者の本をもとに議論しました。私は40年以上前からコンピュータや電子メール等をメディアとしたコミュニケーションを研究してきましたが、今日のようにスマホ・ネット依存が社会問題となるとは思っておらず、医師・カウンセラーらの啓蒙活動と警鐘に目が開かれました。

令和6年度は「詭弁の心理と論理」というタイトルで、マドセン・パイリーの誤謬辞典といえる本をテキストに、議論 (argument) の学問とされる非形式論理学を紹介しました。論理学は心理学と無関係で、私とは無縁なものと思っていましたが、非形式論理学のように心理学と密接に関連する領域があることを知って驚きました。

令和7年度第2学期はデビッド・バスの本をテキストに、男女の心理を進化から解明しようとするアプローチを紹介しています。進化心理学は従来の心理学の壁を打ち壊して新風を吹き込もうとするものであり、学部生の時にエソロジー (比較行動論) 講座に所属しヒトと動物の行動を学んでいた私は、原点を忘れていたことに気づき、頭から水をかぶせられる思いをしました。

放送大学、そして神戸大学とのお別れ

私はコンピューターを教えてきました。放送大学に来ました時、丁度、パソコンの必携化が始まりました。実習室からパソコンがなくなり、学生は持参したパソコンをWiFiでネットにつなぎ、授業を受けるものです。私は既に必携化の始まったいくつかの大学で教えていましたが、放送大学の場合、面接授業を受ける学生さんの頻度から考えるとパソコンを持ち出しての作業に慣れる必要がありそうです。ガイダンスでも取り入れたらいいかなと思いますが、これはこれからの先生に託すことになります。

私は神戸大学を退任して放送大学に来ましたが、放送大学の兵庫学習センターが神戸大学内にあることから、神戸大学から移られた方が多く、顔見知りばかりという感じで、定年まで一緒の同僚である坂本先生や米谷先生たちとも和気藹々と過ごさせていただきました。ありがとうございました。

私事で恐縮ですが、私は学部、大学院共に神戸大学の出身です。職を得たのも神戸大学でした。途中、私立大学に9年ほど赴きましたが、その間も非常勤講師として神戸大学に通ってました。その後、神戸大学に戻り、定年まで勤め上げて、ここ放送大学に至ります。そしてこの度、ここを退任しますので、これまでの年数を数えてみると、1974年からですので、52年経ってしまっていました。私は半世紀以上の間、神戸大学に通っていたことになりました。これは中々感慨深いものとなりました。終わってしまうのが惜しい、もう一寸、と言いながら挨拶とさせていただきます。



神戸大学名誉教授
森下 淳也



新任の客員教員の先生方をご紹介します



いちざわ てつ
市澤 哲

兵庫学習センター客員教授
神戸大学名誉教授
専門 日本中世史

日本の中世は一般に平安末期から豊臣秀吉の全国統一までと考えられています。なぜこの時期を一つの時代ととらえることができるのでしょうか。中世は、古代＝律令制や近世＝幕藩体制のように時代の特徴を端的に特徴づけることが容易ではありません。武家の時代に見えますが、朝廷や大寺社、地域勢力も独自の権力を保持した時代でした。

このような中世国家の特徴を説明しようとしたのが権門体制論です。公家・幕府・大寺社など、国家的機能を分担しつつ独自の家政と家産をもつ権門を、天皇が統合しているのが中世国家であるという考え方で、室町前期までの中世国家の説明に一定の有効性を持っています。

しかし実際の政治では諸権門が複雑に絡み合い、権門を統べる天皇の権能はしばしば不全に陥りました。何より幕府はあっても中世国家は公的な暴力を独占できていません。その代わりに、地域や集団が秩序の維持に大きな役割を果たしていました。権門体制論は国家論のモデルとして意味を持ちますが、中世の実態を説明しきるものではありません。

私たちは今、秩序を維持する国家的な暴力がなければ、社会は混乱に陥ると考えてはいないのでしょうか。中世の人々はまさにそのような環境で、普通に暮らしていました。そう考えると、中世を研究する面白さが見えてきます。未成熟でありながら君臨している国家権力とはどのようなものか、そのような状況下で人々はどのように安定した暮らしを営んでいたのか、といった問いが浮かび上がってきます。

授業では事件や戦争に関する古文書や記録、さらには物語などの文学作品史料を読み解きながら、中世社会の仕組みを考え、中世を生きた人々の姿を追っていきたいと思っています。



いとう まさゆき
伊藤 真之
兵庫学習センター客員教授
神戸大学名誉教授
専門 宇宙物理学

かつて人類は、人間の目で見える光、可視光を通して宇宙を観察してきました。20世紀の科学・技術の飛躍的發展により、電波、赤外線、紫外線、X線、ガンマ線など、可視光とは波長が異なる電磁波を通じて宇宙を観測することが可能となりました。その重

要な背景の一つとして、ロケットや人工衛星を利用して、地球大気の外に出て宇宙を観測する道が開かれたことがあります。多くの波長域の電磁波が大気の吸収を受け、地上では観測が難しいためです。また、電磁波以外にも、宇宙線、ニュートリノ、重力波などを通して宇宙からの情報を得ることができます。

これらの新しい“窓”を通じた観測を含めて、現代科学によって明かされた宇宙の姿は、それ以前には想像できなかったような、ダイナミックで、多様性に富むものでした。放送大学では、現在も次々に生み出される研究成果も含めて、このような宇宙の姿を、その基礎にある物理学との関係を含めて、皆さんと共有してゆきたいと思います。

第二次世界大戦後、ロケットを利用した実験によってX線による宇宙観測が可能となり、1960年代にはブルーノ・ロッシらの研究グループが太陽系外X線源を発見するなど、X線天文学の本格的な幕開けにつながりました。ロッシはこの研究について、「この発見に導いた実験の最初の動機は、自然が持つ尽きることのない豊かさ、人間の想像をはるかに超える豊かさに関する無意識の感覚であった」と述べています。科学という営みが明かしてゆく、“歯ごたえ”があって、“豊か”な宇宙の姿を皆さんに楽しんでいただけることを期待しています。

（“歯ごたえ”は、寺田寅彦「相対性原理側面観」より）



きしもと よしひろ
岸本 吉弘
兵庫学習センター客員教授
神戸大学教授
専門 絵画の創作と研究

このたび、兵庫学習センターに客員教員として着任いたしました岸本と申します。初めての放送大学での担当として不慣れなところもありますが、どうぞ宜しくお願い致します。

私の専門は絵画の創作と研究です。主には画家として抽象絵画の創作に従事し個展

やグループ展への出品など発表活動もおこなっており、同時にアメリカ抽象表現主義を対象とした理論研究も創作との両輪で携わっています。

これまで絵画表現は歴史とともに変遷を遂げてきました。それは正に時代を映す鏡とも言えます。皆さんにはそうした絵画表現そのものの魅力や独自性を身近なものとして感じ理解して頂き、実践も交えた体験として受け止めて頂きたく発想をしています。

現在のデジタル表現やAI技術などの出現や進歩は、絵画表現にも大きな影響を与えています、それは現在進行形の状態で進んでいます。歴史を振り返ると20世紀においても写真や映像などの複製技術の登場や発展が、少なからず絵画の存在意義を効果的に問い直してきました。そうしたメディアや技術の発達、アナログ的な表現解釈を問い直し促進させてきたのです。ある意味で時代的にも現在が（絵画表現においても）大きな分岐点でもあることでしょう。

一方で時代の変遷や流行とは無縁に存在し続ける「変わらないもの」の価値もあります。それは生身の人間が、時間も掛けながら丁寧に思考や感性を重ねて実践してきた唯一なるものの意義です。即ち絵画表現には「変わるもの」と「変わらないもの」があり、更には「変えようがないもの」「変えてはいけないもの」があると私は理解しています。

こうした絵画表現が持つ歴史や現在性を、皆さんと一緒に考え、実感していきたいと思っています。



くまの みちこ
熊野 道子

兵庫学習センター客員教授
元大阪大谷大学教授
専門 教育心理学・社会心理学

このたび、兵庫学習センターの客員教員として着任しました熊野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私はこれまで、心理学の立場から、いかに「生きがい」を形成していくかについて研究を行ってきました。

現在、国内外で「ウェルビーイング」が注目され、国際的なハピネスランキングの発表や、ウェルビーイングの指標をめぐる議論が活発に行われています。こうした中で、ウェルビーイングには文化差があることも指摘されています。

一方、日本にはウェルビーイングと深く関わる「生きがい」という日本固有の日常語があります。生きがいは、「いかに生き生きと生きるか」という人生の核心に関わる問題であり、日常生活の中で自然に用いられている言葉です。「生きがい」を持つことは、生きていく上での支えとなり、人生に張り合いをもたらすものだと考えられています。近年、この生きがいは「ikigai」として海外でも注目されており、日本発の概念として国際的関心が高まっています。

生きがいは日本固有の言葉ではありますが、その背景にある「人生に生きがいを感じる経験」は、国や文化を超えて多くの人が共有しているものだと考えられます。私は、このような視点から、日本発の「生きがい」研究を通して、国際的なウェルビーイング研究にも貢献することを目指しています。

ゼミでは、生きがいを形成し、維持することを心理学・哲学・教育学の視点から捉え、理論だけでなく、皆さん自身の経験とも結びつけながら、共に考えていければと思っています。



さかもと かおる
坂本 薫

兵庫学習センター客員教授
兵庫県立大学教授
専門 調理科学

食べることは生きるために必要です。他の生き物と同様、私たちは食べ物から栄養を摂取して生命を維持しています。しかし人間は、栄養のためだけに食べているではありません。

たとえば日本人の主食である米を考えてみましょう。すずめは実った稲穂の米をそのままついでばんで栄養源とします。一方私たちは、稲

を刈り、乾燥・脱穀し、籾摺りしたのちに搗精して精白米にします。さらに水を加えて一定時間浸漬して吸水させ、火加減を調整しながら加熱し、蒸らしてようやくごはんになります。こうした過程を経ることで、米粒内部ではでんぷんの糊化が起こり、硬かった生米はやわらかく消化しやすくなり、甘みや香りも生まれ、おいしくなります。さらに私たちは、ごはんを主食としておかずや汁物と組み合わせ、一つの食事としていただきます。

もし栄養を得るだけなら、ここまでの手間は必要ないはずですが。多くの動物も、栄養を得るために食べ物を摂取しますが、人間だけがこのような「調理」を行うという点に大きな違いがあります。では、人はなぜ調理をするのでしょうか。

これまで、私は「調理科学」に焦点を当てて研究をしてきました。食品学と栄養学の間にある学問が調理科学で、「食品素材」が調理・加工により「食べ物」に変化するその過程と「食べ物」が私たちの口に入るところまでが研究対象です。調理科学は、食品素材が調理によってどのように変化し、食べ物としての価値をもつのかを科学的に探り、加熱や水分、味や食感の変化、消化との関係、さらには食文化や嗜好とのつながりについて考える学問です。食べること、調理することの意味を、一緒に考えてみませんか。

FMゲンキ「飛び出せ！まちの元気人」(姫路市提供)に出演しました

2026年1月8日(木)、兵庫学習センター 岡田修一所長が恒例の学生募集キャンペーンで、学生の成定弘子さんとFMラジオ番組に出演しました。

- 入学のきっかけ

成定さんは日本語ボランティアを始めたのをきっかけに、もっと日本語についての知識を深めたいと考え、放送大学への入学を決めました。大学卒業資格を得られること、通信制で学びやすいこと、費用も抑えられ多くの人に開かれた大学であることも、入学への背中を押してくれたそうです。

入学後は、BS テレビ放送やインターネット配信を利用した放送授業やオンライン授業で、自分のペースや興味の高さに合わせた学びを楽しむことができました。

- 面接授業で全国の学習センターへ

現在何よりも楽しいのは、全国各地で開講される面接授業を受講することのこと。様々な名所や博物館で、研究に携わる先生方の生の授業が受けられること、また同じ興味を持つ学生の皆さんとの交流がとても刺激になるそうです。

今後は、山陰や銚子でのジオパークの面接授業をきっかけに興味を持ち始めた理系科目について、より深く学んでいきたいということです。



★「飛び出せ！まちの元気人」は、FMゲンキのWebサイト「聴きのがし配信」から聴くことができます。

公開講演会の報告

2025年11月9日(日)、神戸大学教授の青木茂樹先生による公開講演会「入門：素粒子と宇宙」が開催されました。

物質を構成する最小単位である素粒子と、マクロの極限である宇宙は、両極端でありながら密接に関わっているそうです。肉眼では見ることのできない小さな世界と、広大な宇宙について、人類がどのように理解を深めてきたのか、分かりやすく説明していただきました。



2026年1月25日(日)、元客員教授・神戸大学名誉教授の城仁士先生による公開講演会「よりよい生活のための心理学 - 生活実践研究のすすめ -」が開催されました。

何のために、誰のために心理学を学び、そしてどのように学びを深めるのかに始まり、身近な生活をよりよくするための実践的なアプローチについて解説していただきました。

2026年2月15日(日)、客員教授の重富公生先生による公開講演会「グローバル経済の歩み - 過去からの展望 -」が姫路市地場産業センターで開催されました。

今日の世界経済のありかたを示す「グローバル経済」について、必ずしも拡大一筋ではなかったその変遷について、お話いただきました。



2026年度 第1学期 面接授業について

■ 面接授業とは

「面接授業（スクーリング）」では、学習センター等で他の学生と一緒に教員から直接指導を受けることができます。

幅広い学問分野で、授業形態は通常の講義形式のほか、フィールドワーク等多彩な形態で開講しています。

受講対象者：全科履修生、選科履修生、科目履修生



<2025 年度の面接授業の風景>



学習センターでの座学だけでなく、学外にて見学や実習を経験できるのが面接授業の魅力です。

2026 年度第 1 学期のおすすめ科目

今学期の面接授業は新規科目や授業内容がブラッシュアップされた科目が多くなっています。気になる科目はぜひ、シラバス等をチェックし、受講してみてください。

★兵庫学習センター開講予定 『「人新世」時代のイヌイトの挑戦』

放送大学の専任教員である大村敬一教授の面接授業が開講されます。大村先生は社会文化人類学を専門とし、カナダ北極圏で暮す先住民イヌイト（イヌイット）の研究に従事されています。現地でのフィールドワークでのご経験も通して現代の生き方について考える授業です。

★姫路サテライトスペース開講予定 『心理学実験3・臨床心理学演習2』

久しぶりの姫路サテライトスペースでの心理学系科目の開講です。

授業内で複数のワークを体験することにより、各実習課題について理解を深めることができます。認定心理士等の資格取得を目指される方はもちろん、心理学に興味のある方には、ぜひ一度受講いただきたい科目の一つです。

兵庫学習センターの面接授業では共修生も募集しています

過去に受講済み等で科目登録ができない、でも授業を再度受講したいという方は

「共修生」として聴講が可能です！！

共修生とは…

本学に入学・在籍されていない方や、面接授業の科目登録ができない大学院生の方、単位修得済み科目を復習のため受講したい方が聴講できる制度です。

対象科目：開講授業の当日に空席のある科目（定員満席の科目は共修生の受付ができません。）

※単位の修得はできません。

※1科目の料金は授業料 6,000 円・事務手数料 200 円です。

追加登録について

(※2026年度第1学期 面接授業開設科目一覧 P10～14 参照)

科目登録決定後、兵庫学習センターおよび姫路サテライトスペース開講科目のうち、空席のある科目について追加登録を受け付けます。

1科目の料金は授業料6,000円・事務手数料200円です。

2026年度第1学期に面接授業の受講を検討されている方はぜひご確認ください！

▶ 空席発表

発表日時	空席状況 確認方法
4月17日(金) 15:00	①学習センター/サテライトスペースのWebサイトや掲示版で確認 ②PC やスマホで確認：放送大学トップページ → システム WAKABA → 学内リンク「面接授業(第1学期)」のページ → お知らせの「空席状況のお知らせ」

▶ 事前申請受付

受付期間	申請方法
4月17日(金) 15:00 ↓ 4月22日(水) 13:10	A. Google フォームから申請 学習センターWebサイトの「お知らせ」参照 B. 学習センター/サテライトスペース窓口で申請書を提出
当選結果連絡日	連絡方法
4月23日(木)	キャンパスメール宛に抽選結果をお知らせ
授業料納入期限	授業料納入方法
4月28日(火) 15:00 ※落選した科目は受付できません。	※お支払い方法は原則キャッシュレス払いとなります。 a. キャンパスメール宛に、抽選結果とは別に届く キャッシュレス払いの手続き案内メールより支払い b. 学習センター/サテライトスペース窓口にて支払い ※期限内に授業料を納入いただけなかった場合は 当選取消となります。

▶ 先着申請受付 …事前申請で満席とならなかった科目は、先着順にて受付いたします

先着申請受付期間	空席確認・申請方法
4月23日(木) 15:00 ↓ (原則) 開講日の4日前まで	<空席確認方法> ①学習センター/サテライトスペースのWebサイトや掲示版で確認 ②PC やスマホで確認：システム WAKABA → 教務情報 → 科目登録申請 → 空席照会 → 希望の科目を検索 <申請方法> A. 兵庫学習センターの窓口にて申込み B. 兵庫学習センターまで電話にて申込み C. 兵庫学習センター宛にメールにて申込み
授業料納入期限	授業料納入方法
追加登録受付後から 5日後 15:00まで ※満席の科目は受付できません。	※お支払い方法は原則キャッシュレス払いとなります。 a. キャンパスメール宛に、抽選結果とは別に届く キャッシュレス払いの手続き案内メールより支払い b. 学習センター/サテライトスペース窓口にて支払い

2025年度 文化祭の報告

11月8日（土）～9日（日）、兵庫学習センター文化祭を開催しました。（作品展示は22日（土）まで）



文化祭 作品展

学生の皆さんによる「作品展示」は、今年度も素敵な作品が揃いました。

出品して下さった皆さん、ありがとうございました！

C言語研究会 「AI 真実判定士」

「C言語研究会」サークルによる「AI 真実審判士クイズ」では、人口知能 生成 AI による発言のウソ（ハルシネーション）を見抜くクイズが開催されました。

「ウソをつく」生成 AI と、今後どう付き合っていけばよいのか、楽しみながら考えるきっかけになったのではないのでしょうか。



学生が3Dプリンターで作成した
「真実審判士」くん



ウェルビーイング麻雀大会

所長企画の「ウェルビーイング麻雀大会」が初開催されました。近年は頭の体操、認知症予防として「健康麻雀」が推奨されています。

参加者の皆さん、懐かしみながらルールを思い出し、腕をふるいました。

優勝者には、岡田所長から記念品が贈呈されました。我こそはという方、来年の参加をお待ちしています！

兵庫学友・同窓会共催 公開講演会

11月9日、兵庫学友・同窓会による文化祭の協賛で、神戸国際大学客員教授の小枝英輝先生による公開講演会「フレイルと運動について考えよう」が開催されました。

軽い運動も交え、生活機能の維持向上のために大切なことを学ぶ機会になりました。



2025年度 兵庫学習センター 学生研修旅行の報告

～ 丹波篠山を巡る旅－篠山城大書院・武家屋敷、立杭焼の陶芸を体験 ～

全科履修生 心理と教育コース 城山 義見

11月18日(火)は寒い朝で、天気予報では「近畿中部は不安定」との予報であった。

当日は9時頃、岡田所長ら職員と学生40名はバスでJR六甲道を出発し、六甲トンネルを抜けて北上し、JR福知山線の古市駅近くから篠山城跡に向かった。予定より少し早めに目的地に到着し、先ず「大書院」を見学した。

歴史をさかのぼれば、篠山城は、1609年徳川家康が築城を命じた。彼は山陰道の要衝である丹波篠山盆地に城を築くことで、大坂の豊臣氏をはじめとする西国諸大名の勢力を押しやる目的があった、とされている。外堀、石垣などはそのまま残っていた。

大書院の見学を終えて、裏側の広い面積の遺構を見て、規模の大きさを実感した。一つの地域に城があることは、産業や文化の発展に寄与し、現在でも観光客が絶えない。例えば、丹波焼(立杭焼)、蕎麦、黒枝豆、篠山煎茶など、

当地の気候風土に根差した農業が発達し、歴史、文化も発展したと思われた。

時間がなく歴史館などは見学できなかった。

昼食後はバスで「窯元」に移動して、立杭焼きの陶芸体験をした。全員が陶芸を実施したが、準備は大変であったと思った。

帰りには、にわか雨が降り、きれいに澄んだ空気の下を背景に車窓からきれいな虹を見た。



全科履修生 生活と福祉コース 石川 由美

JR六甲道南西のricco六甲キッズ前に9時に集合し、お茶と水各1本と龍角散のど飴の袋を受け取り出発。

神戸を出る時は晴れていたのに丹波篠山に着く頃には小雨が降り出した。やっぱり雨の予報。銀杏の黄色と緑のコントラストがステキ。

篠山城大書院前で集合写真を撮りスリッパに履き替えて中に入ると展示室があり篠山城の模型があった。精巧に作られており確認することができた。あと室内には歴史資料なども展示しており、中でも私は古今集かるたに目があった。続いて別の部屋に移動すると鎧兜がずらり。色んな武将の鎧兜があった。

大書院を出て昼食までは自由時間なので大正ロマン館や武家屋敷をおしゃべりしながら散策。雨が本降りになってきたので昼食場所である特産館ささやまに急ぎ足で向かう。お土産コーナーを見つち食事処へ。丹波篠山特産の山の芋(とろろ)をご飯にかけて舌鼓をうった。とても美味しかったです。

次は待ちに待った手びねり体験。バスで窯元やまのまで移動。職人の方の説明を聞きながらこねたり丸めたりのみず。お抹茶のお茶碗に挑戦。楽しい。焼き上がりは45日後との事。うまく出来上がるかなあ。楽しみだけどちょっとドキドキ。

11月18日のこの学生研修旅行を計画して頂きました教職員の方々、そして、道中、安全運転をしてくださった運転手の方に心より感謝申し上げます。



素敵なお茶碗ができました



サークル紹介

活動内容の詳細は兵庫学習センターWeb サイトへ！



兵庫学習センターWeb サイト ➡ この学習センターについて ➡ サークル・同窓会のご案内
興味のある方は、サークル代表者にご連絡ください。ご参加お待ちしております！

団体・サークル名	活 動 内 容
やまびこ	毎月1回近郊へ日帰りで例会山行しています。他にもオプション例会も行われています。 ホワイトとホームページに例会案内を掲示しています。 体験参加を歓迎しますので、一緒に歩きましょう。 サークルHP: https://yhyuuko.wixsite.com/my-site
C言語研究会	授業科目「C言語基礎演習」「プログラムとアルゴリズム」のC/C++プログラム演習 パソコン関係の時事トピックス紹介(兵庫SC) PC・スマホの操作、情報に関する話題を紹介。(姫路SS)
数学おもしろクラブ	毎月1回 原則日曜日(午前10時～12時30分)に開講しています。 元神戸大学稲葉太一先生を招聘し、「線形代数学」を和気あいの雰囲気の中で学習しています。開校日に気軽に体験参加してみてください。 E-mail : qqn63ht9n@voice.ocn.ne.jp
生命と人間を考える 研究会 (SLH研究会)	毎月1回土曜日の午後にヒトの体の構造や機能、疾病について医学について学び、名著をテキストにして哲学・倫理について輪読しています。 顧問は神戸大学医学部名誉教授の岡田安弘先生です。 E-Mail : y.takatoh@nifty.com
「うたごえ」	月1回講師の指導を受けながら、楽しく歌っている合唱サークルです。 歌うことが好きな方、一緒に歌いましょう。 E-mail: norry.titicaca@gmail.com
武田義明先生と 里山を歩こう会	毎月第1金曜に、近郊の里山や名所、植物園を訪ね、神戸大学名誉教授・武田義明先生から植物についてのご指導をいただいています。 和やかな雰囲気の中で、毎回とても楽しい1日を過ごしています。 ご興味のある方は、どうぞお気軽にお越しください。 E-mail : tamagaki90@gmail.com
ESSサークル	毎月1回(第1日曜日午後1時30分から)「コミスタこうべ」にて、簡単な英語を使って練習する初級英会話サークルです。 E-mail : okamagy20@jcom.zaq.ne.jp
経済と金融を学ぶ会	第3土曜日の午後、テキスト輪読と時事テーマ発表の2本立てです。テキストは「行動経済学入門」(真壁昭夫著)、時事テーマは有志による任意テーマの発表です。テーマに沿って自由な意見交換をします。気軽な会ですので一度覗いてみてください。 E-mail : medakakojiro@yahoo.co.jp
地学サークル	月に1回、地質、環境、トピックス、災害について語り、年2回程度地層や関連施設の見学を行う。
モルック	モルックを楽しむサークルを準備中です。 モルックとは、木の棒を使って、12本の木製のピンを倒すフィンランド発祥の軽スポーツです。 月1～2回の実施を予定しています。ぜひ一度ご参加ください。

事務室からのお知らせ



機関誌「つばさ」の発行月・回数の変更、郵送の停止について

これまで5・9・11・3月に発行していましたが、2026年度から4・10月に変更しました。
今回の第80号をもって郵送も停止いたしますので、郵送希望のお知らせをくださった皆様も、今後は兵庫
学習センターのWebサイトからご覧いただきますようお願いいたします。

兵庫学習センター Web サイト ▶ <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/hyogo/about/magazine.html>

「ゼミ」のお知らせ ～兵庫学習センター客員教員による「ゼミ」を開講します～

2026年度第1学期は、5月から開講します。

受付期間 4月中旬～(1週間程度) **申込方法** 入力フォーム・電話で受付の後、定員を超えた場合抽選

★ 詳細は、兵庫学習センターWebサイト、または兵庫学習センターホワイエ、姫路サテライトスペースに
掲示します。

退職の職員からご挨拶

事務長 榊原 由美子 2年間大変お世話になりました。特に私よりも年配の学生さんが学修やサークル活動に明るく熱心に取り組んでおられる姿にはとても元気をいただきました。

比叡山への研修旅行も良い思い出になりました。皆さまのご活躍とご健康を祈念しております。

事務職員 松山 徹 事務職員として5年間、所長をはじめ多くの皆さんにお世話になりました。特に学生の皆さんには大変助けられました。

そして学生の皆さんの輝く姿に魅せられて、いつの間にか私も放送大学に入学していました。

今後は卒業を目指して頑張ります。



事務職員 金谷 積計 在職中は、サークル活動や研修旅行を担当させていただき、多くの皆さまと一緒に過ごしたことを心より嬉しく思っております。皆さまの温かいご協力と笑顔に支えられ、充実した時間を過ごすことができました。これまで本当にありがとうございました。



兵庫学習センター/姫路サテライトスペース開所時間



2026年度 より、閉所日週2日制に移行しました

開所日	利用時間
4～6月：水～日曜日 7～9月：火～土曜日	9:30～17:30 (12:00～13:00は窓口業務、 図書事務手続きを行っておりません)

★ 閉所日：【4～6月】月・火曜日、【7～9月】日・月曜日、国民の祝日、所長が特に必要と認めた日
※日曜日に行事がある週は、日曜日を開所し、翌週の月・火曜日を閉所します

★ 臨時閉所日：5/3～7(GW)、6/21(兵庫のみ)、8/9～17(夏季休業)

4月～9月のスケジュール



4月

中旬	兵庫学習センター開講「ゼミ」申込受付（1週間程度）
17日	面接授業 空席発表・追加登録事前受付開始（～22日まで）
23日	面接授業 追加登録先着受付開始（～科目ごとの登録期限まで）

5月

7日～27日	通信指導 提出期間
--------	-----------



6月

10日～	2026年度第2学期 出願受付開始（学部・大学院〔修士選科・科目生〕）
10日	2027年度 大学院修士・博士全科生 募集要項配付
20日	卒業研究 説明・相談会
21日	兵庫 SC のみ臨時閉所（建物内停電のため）
下旬	単位認定試験 受験資格の確認【受験票の送付は廃止されました】

7月

中旬	2026年度第2学期 科目登録申請要項送付
14日～22日	単位認定試験期間（Web 試験記述式・併用式・郵送試験は18日必着）

8月

13日	成績発表（システム WAKABA）
9日～17日	夏季休業による臨時閉所
15日～25日	2027年度 大学院修士・博士全科生 出願期間
15日～31日	2026年度第2学期 科目登録申請期間（郵送は30日必着）
31日	2026年度第2学期 出願受付締切（第1回）（学部・大学院〔修士選科・科目生〕）

9月

9日	2026年度第2学期 出願受付締切（第2回）（学部・大学院〔修士選科・科目生〕）
27日	2026年度第1学期 学位記授与式（兵庫 SC・姫路 SS 合同）

■ 放送大学兵庫学習センター

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 2-1
（神戸大学六甲台キャンパス内）
TEL: 078-805-0052 FAX: 078-805-0067

■ Web サイト

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/hyogo/>



■ 放送大学姫路サテライトスペース

〒670-0012 兵庫県姫路市本町 68-290
（「イーグレひめじ」地下2階）
TEL: 079-284-5788 FAX: 079-284-5812

■ Web サイト



■ ×（旧ツイッター）

